

明治三十七年八月軍艦新高戰時日記

日(金) P.M. B C Comm 0 155-NW 1-2 29.98-29.89

正午位置尾崎灣

各砲一、番二番砲負内筒砲射撃ヲ行、主前上時第

九第十、第十五艦ヲ發、續々第四戰隊出港ス航行

序列次如、定(原速十里)

〇〇〇〇〇〇 第十五艦隊

〇〇〇〇〇〇 第九艦隊 第十艦隊

着時第九艦隊豆駮崎方面ヨリ来、急ス、鶏炭水補充

為、引、解、尾、崎、ス

合時、槍、信、二、依、引、列、解、北、東、方、面、急、航、ス

海軍

對馬艦首方向ヨリ来リ列スル

今五時凡テ瑞丹及ブルムス上ノ木材ヲ固搏ヒトソブヌトス

テトラ外ツス

今六時第士第十五艦隊余ヨリ解列ス

二日(火) AM. BLN 1-1 29.98-29.83  
PM. BC NE 1-2 29.98-29.83

正午位置 34°17'00" 129°16'00"

午前六時昨夕解列シ第十一第十五兩艦隊帰来シ

第九艦隊豆酸方面ニ回ケ去リ

正午第士艦隊着目丸ヨリ炭水補充ヲ為シ列艦ニ

酸ニ赴キ午後三時西艦隊着目炭水補充ヲ度ケ帰来

列スル

午後六時余ヨリ第十一第十五兩艦隊解列シ前者

本隊右側ニ居リ位置ヲ換テ後者ニ東方ニ向テ出

散入

四置哨兵配備整置

三日(水)

哨兵

NE E N N E E

3-4 29.87-29.84

正午位置

34-12-1-02 130-9-0E

正午時旗信より高千穂及第十第九西艇隊神崎中

二於解列竹敷向第十艇隊中哨艇勤務三隊

午後七時次余ヲ後編列東水道向航ス

旗艇浪速ヨリ信辨余令

其艇今ヨリ列解ヤ中哨艇勤務ニ服ス

未ヨリ高千穂交代ス途中哨艇今ヨリ中哨艇

今八時哨兵令余ヲ傳フ

BC NE BC NE

四日(木)

PM

BC NE BC NE

3-4 30.30-29.86

海軍



四軍艦高千穂不在中A内監ヲ候し乃チ第四回地妻Cヲ  
 第三回地妻トシB監復時別々所ニ降ヨリ合時迄トス  
 第三艦隊司令長官上村彦之丞

2676



一隊機隊第五八號

第二艦隊司令

明治三十七年八月廿日  
松島海軍工廠

一松島及竹辺港に於て望樓建設作業爲るに於て

遺佐渡丸ヲ護衛トシテ同敷第十九艦隊司令

指揮下第十九艦隊及鶴

全艦隊、明治廿日天明尾崎並敷翌八日午前松島に達

諸材料人員、陸揚及望樓建設位置、擧定

了、今日午後竹辺港に望樓九日午前各地に任務

了、帰途、就、豫定す

二、第二艦隊(千早、缺)及第十九艦隊(鶴、カガ)に在

同接掩護、爲、明治廿日午前八時三十分出港、對馬

並方より大田河内無線電信区域に遊弋し來り

九日、帰途、就、入

此出動中新高島ヲ第三戰隊附信セト

原速力十節 久速力五節

(三)新高島ヲ本隊出發後之ニ命令セシ其後竹田灣泊場

連絡ヲ保シ又第十九艦隊及佐渡國丸ノ帰途ニ於テ

是ト連絡ヲ保持スルニ任務ヲ命スルニ其行動ノ便ニテ

「隨時之ヲ入

(四)此出動中諸艦艇ノ總體ニ責任トシ置ク

(五)此出動中第四戰隊担任ノ哨艦勤務ヲ免シ

D哨艦ニ第九艦隊ヲ便宜敬言戒任ス

第二艦隊司令長官 上村 孝之助

四戰機隊第二七號ノ二

第四戰隊司令官 三宅 信之助

(一)第一戰隊(千早ヲク)新高島ガ 明治三十四年九月

海軍

二試、此同第四戰隊担任ノ哨艇ヲ獲ル

(二)佐世保回航高千穂来八日午後佐世保着九日高千穂着候定

(三)右哨艇ノ如ク定

浪速 高千穂 對馬 新島 千早

午前十時出港東水道哨艇ヲ獲ル途中對馬ノ

竹敷ニ停港ス。遇テ今八時英國汽船一隻東航ス

認

七日(日) AM BC DM 28-3 30.02-29.87

正午位置 34-46-22 129-21-02

本日ヨリ離署自課ヲ施行ス

第四戰隊司令第二〇七號ノ之

第四戰隊司令 三十七年八月廿日 及右哨艇位置ヲ獲ル

佐世保回航中、高千穂 帰来セム以テ哨艇ノ着候高

于穗于卓浪速對馬新高向攻  
 午前七時半大艦隊に到り三旗艦出帆し湾外待てし  
 無敵艦隊司令接し湾外漂泊し候ヲ待し浪速  
 出港哨区に向し進出  
 艦隊數より北航五號南より俾供ス暫時ミテ  
 第一戰隊及第十五艦隊出港ス候ミテ刻入ル五番艦  
 上之原速力十里 總艦長久  
 午前十時一隊機長より二八號三ノ該當ス候下  
 受テ解列速力十二里ニ増加シ迎日湾に向テ  
 午後五時全湾外至り湾内ニ依渡國丸及艦隊  
 練演習ヲ觀メ之ト通信連絡係ヲ午後六時共  
 禁煙具ニ向航ス 四直哨兵配備  
 飛行序列次如シ

海軍



正午位置

36-37-0N 150-9-0E

正午竹辺重機、通信、佐渡国丸及艇隊が正午十時出港  
たゞ、確かな午後一時佐渡国丸等三念の次、航行序列に入  
尾崎に向航入

新高 佐渡国丸

0 0 0 0 0 0 0 0 0 0

十日(水) AM

BCW-BC S-SSW R-3 30.09-29.94  
BC W 0-1

正午位置

34-54-0N 129-25-0E

午後時艇隊列ヲ解キ竹敷直航ニ本艦ニ亦獨リニ

續キ佐渡国丸ニ後、高千穂ニ北航スニ念ス

今時正午竹敷港南字嶋、東北東ニ北約二鍊ニ

投錨ス、石炭搭載ス(二百トニ)

十日(木) AM

BC calm 0 30.18-30.10  
PM BC-PM SE 0-1

ヶ敷碇泊

對馬路島出港、高千穂入港、浪速航機故障、為

將旗ヲ高千穂ニ移ス

第三戦隊出港

四戦隊密第二〇八號

第四戦隊命令

三十七年八月十一日午後三時  
六ヶ敷碇泊浪速

一 最近情報ヲ綜合スルニ昨日艦出ヲ試ミ今夕我艦

隊ト激戦シ高千穂隊ノ龍長艇手ヲ受ケテ旅順ノ敵

艦ヲ潰シ今十日午五時漸次旅順ニ返港セルモノナ

リ但シアスリッド、ハビウク、ツエガレウキツヤ、ハルカ、四隻

及駆逐艦四隻、其行衛不明ナリ以テ或ハ南下ス

ヤモ計ラズ

二 旅順ノ我主队ハ十日夜山東南ヨリ南下シ今十時山東

南方面<sup>ニ</sup>向<sup>テ</sup>引<sup>キ</sup>込<sup>メ</sup>テ走<sup>リ</sup>我<sup>ノ</sup>第<sup>二</sup>戰隊<sup>ノ</sup>之<sup>ニ</sup>會<sup>セ</sup>ニ爲<sup>ス</sup>  
×本日午前十時尾崎ヲ敷セリ

(三) 予<sup>ハ</sup>第<sup>四</sup>戰隊<sup>及</sup>第<sup>九</sup>第<sup>十</sup>第<sup>十五</sup>第<sup>十七</sup>第<sup>十八</sup>第<sup>十九</sup>艦隊ヲ率<sup>テ</sup>當<sup>テ</sup>雷<sup>海峽</sup>ヲ嚴<sup>守</sup>シ未<sup>レ</sup>會<sup>セ</sup>敵<sup>ノ</sup>勢<sup>力</sup>ニ應<sup>ジ</sup>根<sup>拠</sup>地<sup>ヲ</sup>遠<sup>サ</sup>カ<sup>シ</sup>戰<sup>陣</sup>内<sup>ニ</sup>於<sup>テ</sup>敵<sup>ヲ</sup>要<sup>撃</sup>手<sup>セ</sup>ト<sup>ス</sup>

(四) 哨<sup>戒</sup>線<sup>ノ</sup>附<sup>屬</sup>面<sup>(附屬面)</sup>ニ示<sup>ス</sup>カ<sup>ル</sup>第<sup>四</sup>戰隊<sup>及</sup>第<sup>十</sup>艦隊<sup>ノ</sup>十一日午後七時竹敷<sup>ニ</sup>敷<sup>キ</sup>予<sup>ハ</sup>定<sup>リ</sup>線<sup>ヲ</sup>ニ就<sup>ク</sup>

浪速<sup>ノ</sup>艦<sup>機</sup>故障<sup>爲</sup>シ時<sup>ヲ</sup>旗<sup>船</sup>高<sup>千</sup>穂<sup>ニ</sup>移<sup>ス</sup>  
浪速<sup>ノ</sup>十一日夜出<sup>帆</sup>十一日天明神崎<sup>沖</sup>ニ奉<sup>隊</sup>ニ  
會<sup>合</sup>時<sup>ヲ</sup>旗<sup>船</sup>浪速<sup>ニ</sup>復<sup>命</sup>ノ<sup>ヲ</sup>定<sup>ム</sup>  
航行<sup>ノ</sup>序列<sup>ハ</sup>原<sup>速</sup>十二<sup>時</sup>

浪速 高橋 新島 對馬

第九艦隊

爾後登同神崎沖ニ在キ漂泊者ニ巡邏ニ日改

行リ予定線ニ就キ天明ニ至ル

對馬ニ本夜適宜ノ行動ヲ取リ十日天明後神崎

沖ニ於テ本隊ニ合ス

本隊ト合行ス艦隊ノ序列ニ如ク之ヲ例トス

本隊

第十九

第十八

第十一

〇〇〇〇

〇〇〇〇

〇〇〇〇

〇〇〇〇

六敵艦見、信務等四戰隊機密ヲ八〇號令  
令ニ據ル各艇探海燈ノ燃言急信務ニ特ニ注意

スベレ

七、第一戦隊不在中時尾崎ヲ引揚る場合在テ全軍警戒ニ

戒令アラス全隊別令ナセバ本哨戒配置ニ就キトス

八、艦艇散出後集合所ヲ尾崎港トス

午後七時四戰機秘密第二〇八號命令ヨリ出港ス

航行序列

高橋 新島

第九艦隊

0 0 0 0

十日(金) AM. BM-BC NE-0-1 130.12-3003  
PM. BC NW-NE 0-1 130.12-3003

正午位置 34-5-0N 129-7-0E

正午の時ヲ是ル如ク軍艦對馬ノ神崎沖ニ於テ列ニナリ

第十一艦隊モ来ル令ス斯の時ニテ第十一、第十八両艦隊

海 軍



十番(日) PM. B.P. 6-4 / 30.01-1898

正手位置 35-17-10 N 130-20-0 E

正敵三時正敵通於本備艦ニ遭ニ味方暗号ヲ付テ今  
六時神保町橋ヲ通過シ降旗ニ南夕艦ヲ見セ地  
真ニ見ニ電信感ニシテ該地真ニ向航ス全六時  
手合戰準備備置速カキ速ニ十里ノ外ニ全七時  
十分高千穂ヲ大回ルニ無俟電信ニヨリ全八分地真  
ニ於テ交戰中ニ知リ該地真ニ向航ニ十分浪速  
高千穂ニ艦ガ懸艦ニヨリソクト交戰ニシテ認テ在る  
ヲ戰野砲置ニ射テ志氣頗ル杜ナリ全十時半分ニ  
ソクニ次返ルニ確ニ本隊ニ合テ下欲ニ並航セシ合ニ本隊  
南下スルニ合ニ同行ス懸艦ニヨリソクニ号ノ船者十四名ヲ收容  
シ本隊ト共ニ尾端ニ向テ合戰準備復田

海軍省

午後一時尾崎灣へ港島地島幸々東へ東七鐘技鐘  
一隊被家五四拜(横雲)

瓜生第二艦隊司令官官制令  
明治三十七年八月十四日  
瓜生第二艦隊司令官官制令

一上海總領事ヨリ情報ヨリ英艦「リーリック」が十五日五時十

時濟洲島バルドール島ノ南々西八七哩附近ニ於テ遊艇

「アーヴィン」が八節乃至十節ノ速カニ南東ヨリ東方向

ニ航スルヲ見ケリト云フ

ニ貴官ニ麾下ニ艦ヲ津輕海峡ハ瓜生敵艦ニ對シ

行動セムベシ

ニ津輕海峡極善戒ヲ大湊水雷團長宮岡大佐ニ當

リ居レリ

四貴官ニ時余ノ諸艦艇ヲ以テ對馬海峡ニ嚴重ニ監視

スベシ

第三艦隊司令官 上村彦之丞

十五日

APM. BC Cabin 0-1 30.12.29.98

辰崎浦砲台

午二時予艦隊出港、浪速有早穂、佐世保、向島出港

安平丸ヲ横付け、名岩塔搭載(二百五十)迄、午後十

時、寺分出港、庫ヨリ、佐世保、向航、庫中、午後三時、安

丸、丹波丸及外、慶大、孤山、迄、漕、午後七時、佐世

保、大、港、第、十五、浮、標、敷、系、印、浦、ス

十五日(火)

APM. BC 29.98 29.88

佐世保砲台

正午出港、夕敷、南、速、方、十五、里、午後、四、時、田、分、竹、敷、南

宇崎、也、々、東、三、東、三、三、鍵、ニ、投、鐘、ス

總員集后、合、田、天皇、陛下、下、下、賜、勅、諭、ヲ、奉

毎 日

讀ス

十日(火) AM B-BC PE 13 2985-2973

尾崎磯泊

午飯尾崎磯面航し第七浮標敷系留ス

午後第二艦隊及日本丸入港

總員ヲ集存し自尾陞下及皇太子殿下ヨリ第二艦隊

ニ下シ賜エシ旨ヲ奉讀ス

乙陽機密第五五號

瓜生第二艦隊司令部官ニ訓令  
明治三十七年八月七日  
午後四時發給

一本職ヲ本十七日大本營ヨリ九ノ訓令ヲ受ケタリ

(一)上海ニ道走スル艦隊ニ軍艦短分ニラキ清國艦

憲申出對艦艦國方始メ上海在泊其權利

ヲ決テ清國ノ申立ヲ加スモ此ガスト主張ニ然ラハ道

武装ヲ解除スベキト申込、對シテ彼ノ更ニ主張ヲ妻ジ  
 航海ノ必要モ修理シテ先有艦スレト者ハ現ニ或修  
 理ニ取掛ツツアルモノ、如ク彼ト兎南暖昧ノ種ニ時目  
 ヲ遷延セシメトスルモノト認め、依テ我ハ此際与力ヲ以テ  
 彼ノ圧迫ヲ試ミトス  
 貴官ニ尋巡洋艦一隻ニ、三尋巡洋艦ハ君シクハ  
 二隻又及水雷艇二隻ヲ上海方面ニ分遣スルハシ  
 (二)上海至ハ露國ニ軍艦如分ニ送スル帝國政附方針  
 ハ長キ訓練第一號第一號ニ示セル通りセリ以テ  
 分遣艦隊指揮官ハ田中總領事ト連絡ヲ保  
 持遣送スルキヲ期スルヲ要ス  
 (三)貴官ノ第四艦隊ニ艦及南艦及第十五艦隊ハ二  
 隻ヲ率テ上海方面ニ急行シ大本營訓令ノ趣ニ遵

海軍

と機軍ノ運動ヲ執ル

但し本艦國三艦ノ分ニ關シテハ直接大本營ノ訓

令ヲ受ケ任務ニ服スベシ

三貴官此行動中必要ニ慮ヒ艦艦ニ常船名ヲ移シ

得第ニ艦隊司令長官上村ニ至ルニ至

十八日 水 31 34 39.8 / 29.18

尾崎河津

瓜生司令官艦艇ヲ常船名ニ移シ艦隊番号ヲ

如ク定ム

(1) 常船名 (2) 浪速 (3) 新高

乙陽機密第五八號

右ノ敬告急信ヲ加エ當陽限ノ使用ニ

明治三十七年八月十八日

第二艦隊司令官長官 上村 亨之丞

標旗一旗使用スモ現在砲一門平均残餘彈藥

概數ヲ示ス

自之ニ答ルル右舷ニ八月砲左舷ニ三月砲 彈藥數

ヲ示スモトス

四戰艦隊第二二號ノニ 投料

第四艦隊司令官 三十七年八月十八日 陸軍少將 藤原良彦

一敵状

(1) 最近ノ情報ニ依ルニ旅順ヲ脱出シ吳淞ニ入りしハス

コリツトトモ少ク損傷ヲ受ケ八月廿五日午三時全所

アイロターナシヨカドックニ入泊目下修理中ニテ八月十七

日午後軍令部長ヨリ度領セシ電報ニ依ルニ其状況尤

如シ

海軍

アスコルト修理之事見積

諸電氣燈船ノ艦部屈曲舷側板拵三枚ノ取換

舷側板ニ於テ丸何ノ孔竅キ方煙突ニテ取換ニテ修

理令テ今所ニ道志馳返船ガズガオハ十四日キ

ク時上流ニ翔リ東清鉄道会社津頭ニ駐系留セリ

思ニ其戰前航海力ニ故障キ者ト認テキル可キ人

(四) 第二艦隊大部依然對州海峡ヲ拒守ス

隊極密ヲ示シ五號第二艦隊司令長官ノ訓令

基キ臨時特種艦ヲ常艦ニ移シ常艦ノ浪濤

高及第十五艇隊ノ密ニ在リ馳ヨ寧ニ上海ヲ於テ敵艦

隊知方ノ爲メ明十八日出発ニテ天明馬鞍島群

島附近ニ達シ對空警戒キ行動セトス

(五) 此行動中艦隊区分及馬鞍島長途ノ航行序列



下	第四戦隊戦策ニ基キ行動スベシ
い	艇隊行動ニ同意ニ任ス
(ト)	馬鞍島着后行動ヲ進メシム
(ウ)	上海敵艦処分ニ就テ直接大本營ノ命ヲ受テ任務ニ服ス
(四)	天候艇隊ノ航行ニ困難ニ堪ヘシキ場合ニ在リテ浪速ヲ附シ適宜ノ位置ニ避難セシメ天候回復次第本隊ニ合セシム其集結地點ニ別命ヲ付カシラシム島東トス
	第三艦隊司令部 瓜生 外音
十九日	金
	AM BC BC-OCR 4-MS 1-29.89-29.70
	正午位置 33-33-00N 129-08-00E
	午前五時出港瓜生司令部遺隊ニ編入セシ上海方面行動ノ為メ上海ニ向航ス

航行序列

常盤 浪連 新島

西條 鶴

午前七時 船名 尾崎 六港 へ 出ス

今九時 浪連 炭材 故障 為メ 列外ニ 出ダリシガ

今十時 修理 了リ 列入シ

三日(土) AM BUB-OCORUN-NW 4-5 2997-2996

正午位置 31-13-0N 143-28-0E

午後三時 船長 渡辺 人 去匠 時 佛國 汽船 揚子 江

ヲ 出テ 東 航 スル ヲ 認メ 午後 五 時 上 島 附 近 へ 達

シ 漂 泊 今 午 時 鷗 ヲ 横 付 コシ 炭 灰 及 洗 水 ヲ 補 給 ス

午後 七 時 鷗 船 乗 員 後 々 ガ ン ラ ン 島 到 埠 舟 ヲ

全島電信の通達、打電の終、奉隊を合ス

四戰隊表第二二號

第四戰隊隊令(摘要)

三十年八月二十日  
於揚子江外海

(一) 予、諸種ノ状況ニ依リ揚子江方面到着後九ノ如ク  
行動ニ以上上海道ノ二艦処分ノ任務ヲ遂行スルト同  
時ニ更ニ各方面ニ逃走シ兼ハキ敵艦虞心ニトス

(二) 常艦新首向及水雷艇群ハカウラノ島附近ノ

地實ヲ振擡地トシ常ニ吳淞瓜灘隊ト連

保テ内外ヨリス敵ニ對シ敵艦ヲ及司令艦

崔浪速艦長ノ指揮下ニ吳淞ニ瓜灘ノ浪速

艦長ヲ別ニ呼ビ訓令ニ基キ層層進ニテ威圧ト

敵艦行動ノ監視任セシメ又直ニ敵艦処分ニ

関スル帝國總領事ト直接協議スルニ任セシム

常艦の艦載水雷艇ヲ武装スル旨ヲ松浦連合艦長指揮下ニテ傳令其他任務ニ服セシムベシ	自シ安松浦連合艦長時機適テ令スルヲ以テ其時機迄本隊ト行動ヲ共ニスベシ	三) 常艦・新高及鷗ヲ直向(一)地矣(ガウ)島附近ニ夜泊シ自浸スル出サ致テ艦隊ヲ悔ミ迂回シ接(二)地點(アタラシト島附近)ニ至リ夜泊シ天明迄松浦航路ヲ取リ(三)地矣ニ帰首ス	四) 對敵行動 (一) 江外ニ敵ヲ発見セル場合 此場合ヨリテハ本隊直ニ江ヲ下リ戰場ニ集合スル自シ艦載水雷艇ノ適宜位置ヲ決定シ以テ
---	------------------------------------	--	--

経 理

しんぱん

(四) 倉岡道六艦下江に降るに本隊直まゝ外港に江外に於て艦を破るに策を採り浪速に麻走下り率に別ニ故障ナケル安全に自衛すハガテノ後ヨリ下江に本隊を合すべし

一 上海行動中又必要に思存停号ヲ設ケ此行動中隊ヲ限リ使用ス

二十日 AM. BC-B NAB-N 30.07.29.95  
PM. BC E-ENG 30.07.29.95

正午位置 30-53-15N 122-24-0E

揚子江に外遊すに最モ時ガカラ島ノ東南東に率四里ニ投錨スモ一時投錨アタスト到島ノ東方に警戒地ニ向テ薄暮に到リ哨兵配備今十時アマリス止岩ノ北に東に東三哩ニ投錨ス



ニ合スル

本隊の午七時出港の地奥(ラウリス島)正北マウ

トオスト岩(附道)ノ南方ニ夜泊し明日天明抜錨(の)

地奥附近ニ至リ漂泊ス

隨艦の現行、通

各艦艇の特、警戒厳重スル

第三艦隊司令官 瓜生 外吉

二十三日(火) AM. OC-BC-E / E-NE / 30.04-29.99

正午位置 31-9-15.2 122-25-10.5

午八時 強風より浪速上 隨艦交代、為、解

列 隨戒地、向、午九時浪速上云と交代

懸艦、情報ヲ通知ス

總員ヲ推本台に隨兵心得ヲ請ふニ軍カス

主臥八時三十分、アマタト列島、北ニ由リ運半ニ投錨ス

三十四日(水) 30.06-30.07

正午位置 31-21-0N 129-25-0E

午臥五時三十分出帆、沖波ニ、午後四時獲テ解

錨信俵ニ接シ本隊ニ合ス、為メ南航午後三時ニ

十分本隊ニ合ス、左九時大用山島、南東ニ南ニ

運半ニ投錨ス

三十五日(木) 30.02.29.96

揚子江口外夜泊

主臥六時常船、投錨午後八時夜泊地、帰ル常

船名及水雷艇、鹿島、鶴ノ巻ス

三十七日(金) 29.96-29.97

揚子江口外夜泊

海軍

主敵出時常船を抜錨念時船隊出港午後八時  
常船を戻港

二十七日 (土) 照 BC NE 29.95 - 29.90

揚子江の外夜泊

主敵出時生港列を急速十二里八時よりオ  
止島西側西突岩の南一哩半に投錨ス  
今朝武陽丸佐在俣ヨ石炭及淡水ヲ搭載  
来直上常船を捕付入全土時浪速生港とセシ  
が午後七時帰港ス

二十八日 (日) 照 BC NE 30.00 - 29.95

揚子江の外夜泊

主敵八時武陽丸ヲ捕付石炭及淡水搭載  
始午後四時より午後五時英國汽船ヲ

二月九日(月) 揚子江外海  
 主隊五時出港、五時十分島に向、左六時、早急の波に  
 一、岩、南西、西七鐘、投錨  
 午屋上時出港、右戦準備、支艇隊先發、獲俘  
 二、西、西、見、五隻、怪、驅逐艇偵察、多  
 南西ニ飛行、速方丈、運、午後三時、右、米團、驅  
 逐艦、一、ヲ、確、復、存、ス、右、一、時、獲、ヲ  
 庫、ミ、リ、ガ、ウ、ラ、フ、島、附、近、ミ、リ、チ、本、隊、カ、ト、浦、信、中、船、ヲ  
 去、任、ヲ、以、テ、同、地、ニ、向、キ、右、一、時、ガ、ウ、ラ、フ、島、ノ、南、南、西、ノ、南

手九日(月)

AM. BC E-NE 29.92-29.88  
 PM. BC N-NE

手ニ投錨ス

揚子江外海

海軍

2707

二哩ニ投錨ス同日敷田水雷艇及端舟ヲ運送セガウラノ  
島電信局ニ到リ未電ノ受取及打電ヲナス

三百 (大) 29.85-29.81

揚子江に外泊

善島時清國軍船一隻ガウラ島燈台ニ来リ午後時  
出港シ錨地ヲホシテ燈台ノ北西ノ北ハ運ニ渡リ武  
陽丸ヲ横付けタ石炭ヲ搭載ス午後時亞米利ガ丸南航ス

三十日

揚子江に外泊

午前十時清國軍船飛鷹鳥来リアウラ島附近ニ碇  
碇セ同國軍船海天ノ附近ニ投錨セガ午後一時出  
港上海ニ向テ清國軍船及外四隻ノ餘船上海ニ  
出港ス

明治三十七年九月軍艦森馬戰時日誌

一日(水)

揚子江外側泊

AM 0800 BC 0900 E-NE 89.9-29.9 /

午後一時水雷艇西へ雀尾港へ今一時突太岨向ニ出港

今一時鷗ヲ横付け淡水ヲ補充ス今九時半分出港今

十時半分ガウラ島へ南東へ南四里ニ投錨午後三

時一仏逸子商船上海向航浪速入港今一時余ヨリ

常形下等ヨリ用島東方ニ向航ス西直嘴島配備

午後七時半ガウラ島南々西へ南九里半ニ投錨

二日(木)

揚子江に外側泊

AM 0800 BC 0900 E-NE 30.0-29.88

午後九時具體格檢査並施行水雷艇西へ雀尾港

午後十時鷄を再來し

三日(土) AM BC-100 SE-154 / 2992-2988

揚子江に外泊

午前六時出港し今七時ガウラ島南東に東約三哩ノ

処に投錨ハルガニ雜糧食ヲ搭載シテ米を依テ今十時

之ヲ撤付シテ糧食ヲ補充ス水雷艇鷄米ノ午後一時米

國駆逐艦一隻江ヲ流シ今三時半浪速尾崎ノ向

テ出港ス哨兵配備午後十時甲分西云雀錨地米

四日(日) AM BC NW-154 2000-2993

揚子江に外泊

午後七時國籍不明ノ汽船一隻江ヨリ出デ米

今十時半西云雀ガウラ島ノ向

艦隊区石老ノ如ク定ム

一 藩船 常盤 二 藩船 新高

午後三時平米國馬込船田屋又我近傍過キ上海ニ  
向テ今五時今國軍艦カテラミリスロ江内ダテ今七時  
雲ヶ窪歸来ス

五日(月) BC NW-W R 30.02-29.98

揚子江に外夜泊

午三時佛國汽船安濃ヨリ出港今七時五分  
鷲安濃ヨリ出港今三時雲ヶ窪出港今波北  
東ホルニ島、南東ニ碇リ今五時獲船命ヨリ電  
信度領ノ為メガツラ島ヨリ今七時半用務ヲ了  
ガツラ島、西々南々南々鐘ニ假ル

六日(火) BC NW-W R 30.07-30.01  
揚子江に外夜泊

午前八時雲が陰来り艦尾に影を映す本日午後  
 七島電信局に数回往來して通信は佳か  
 午後四時霧が横付に埃水ヲ補給ス  
 全六時十分在上海ノ敵艦既ニ武装解除ト決定  
 されタリ我任務終了ヲ告ぐ尾端の向テ帰港ノ途ニ  
 一哨兵配備航行序列ノ如シ

東艦 新島

0 0 西艦 鶴

0 0

日 (水) AM. B-BC NE — NE 07 30.06. 30.06  
 PM. Bc-0c N

正午位置 31-51-02 124-58-05

午前諸島南飛一環及独逸商船一環ノ見出  
 取備



従へ省成勤務服せしむ

(一) 哨艦敵對敵艦外殊ニ岸立國船艦ノ

行動ニ注意ニ疑ハキモテハ其數見ニ相当ノ手段ヲ

執ルベシ

(二) 哨区ニ六二地奥上由四地奥向トシ哨艦ノ哨中ニ

此向ヲ遊ビ時々沖島望樓ヲ經本隊及諸

望樓上通信連絡ヲ執ルコトニ注意スベシ

(三) 敵艦急信弗地区信弗其他諸規定等従

敵ノ通リ上

第二艦隊司令官上村文彦

一隊機密第九四番

凡生第二艦隊司令官訓令

一後順方面ニ於テ彼我情状依然

辛酉年九月六日  
發見者 藤原 隆

浦汐敵向尋情報ヲ聞カ  
 二沖繩丸ヲ竹辺湾及松島ニ電線連絡ヲ設ケル為メ  
 左ノ予定日割ニリ作業セテトス同船諸準備急  
 大本自生居竹敷ニ入港豫定  
 一竹辺湾附近ニ浦汐線搜索一予定日割ニ  
 二竹辺湾ヲ同線陸揚  
 三松島竹辺湾線南段及松島ニ陸揚  
 四貴賓ノ麾下ノ軍艦ニ復ラ出カシ交代期ヲ定メ左ノ任  
 務ニ服セム  
 一沖繩丸直接掩護  
 二前進艦上底岨ヨリ本隊ト通信連絡  
 但竹辺湾ヨリ本隊ト直接通信連絡ヲ得ハ  
 三通信中継続艦ヲ焼入

海軍

四、竹辺湾に本隊より直接通信連絡し得る迄、沖島

附近に哨艦を配置し及ハズ

第二艦隊司令長官 上村彦之助

九日(金) 第三艦隊司令長官 上村彦之助

尾崎湾に哨艦を配置す

午前五時、青龍丸が可港に到着し、竹敷に港入

今午時、水雷艇七隻、一、号夜装砲艦、入港、沖島丸

竹敷に六、午後五時、出港、竹敷に六港に

鹿島島、並、西、二、石、鏢、投、錨、す

四、戦、機、密、第、三、五、第、(指、釋)

第四艦隊司令官 三十七年九月九日 尾崎湾に哨艦を配置す

一、旅、順、方、面、に、於、て、彼、我、情、況、に、依、り、思、考、を、行、つ、た、こ、し、浦、塩

敵艦隊に就て、其後得る所を、十、カ、サ、ル、に、以、て、

修理ヲ免成ルルノ報アリ

二番港丸日本丸ノ十極者より函館ヲ根拠トシ津釜海峽配備ノ艦艇ト連絡シテ宗谷海峽ノ警備ヲ任ズ

(二) 畧ス

(三) 第四戦隊(千歳復帰ノカキ全艦ヲ加フ)ノ枕要領ニ依リ對州海峽ノ警備ヲ任ズ

(一) 哨艦ノ敵對ノ海軍兵ニ外殊ニ中立國船航行

ノ動ニ注意シ疑ハシキモノヲ発見スルトキハ相當ノ手段ヲ取リ拿捕スルヲモテ直ニ其日ヲ在尾岬ノ

先任艦ヲ報告シ余ヲ受ケ行動ス可シ由ニ場合ニ依

リ監視又置スルヲ得

(四) 哨艦三ノ二地獄ト由田一地同トテ各一艦宛ニ任シ常ニ此向ヲ巡邏シ時々沖ノ島望樓ヲ至テ先任艦



蓄と其他の全速カニ對スル汽鐘埋込他は其は用意ヲ  
と在自中スルヲ核測部ノ支ヲナスベシ

六、哨艦服舊有スルキ事項の四戰機密第一八〇號令  
令之依ル

七、哨艦哨戒任務ヲ終リ帰來スルニ當リテ干歳道標及岬  
ニハ其他の竹敷並ヨリ岬水ヲ補充スル上ニ尾崎司之圖  
航スベシ

第三艦隊司令官 瓜生外吉

四戰機密第一三六號

第四艦隊司令官 尾崎清海

一、井ノ尾丸の辺海及松島ニ電信連絡ヲ設ケガ為メ  
今日竹敷より明日尾崎司之圖航シ今日午後三時作業  
開始ノ為メ出港ス其速カの約士即平トス

艦

其日割一隊撤去者九四号ノ第二項ノモト左心  
 二第由戦場ノ干前復帰者之加ノ龍南支領ヨリ  
 交互艦宛沖繩丸作書中ノ掩護之任ス而此任  
 務中沖島ヲ面ノ有艦特記ノ場合外中止ス  
 (一)艦ノ沖繩丸ノ直接回セノ艦ノ掩護艦ト庵崎ヨリ  
 先在鷹艦ト通信中絶  
 自ノ竹辺灣ヨリ庵崎ヨリ直通ノ連絡出来上リ次ヲ北中  
 艦ノ掩護艦ト合時沖島哨艦任務ヲ復修ス  
 (三)中絶艦ノ位置  
 三九ノ地奥附近  
 (四)掩護艦及沖繩丸ノ行動ヲ概定ス左ノ如シ  
 (一)直接掩護艦ノ日没迄適宜艦隊ヲ掩護ス  
 (二)日没後適宜南下シ天明ノ掩護艦位置ヲ復ス

ルモノトス

(二) 沖繩丸は夜間其他陸上事業継続中、適宜位置に返泊  
入し寺島城直接掩護艦隊を依り行動スル

(三) 中續艦隊は没後適宜南に羽立天明其是位置復  
スルが如く昼間無線電信有効巨海以外を以て立捕  
里北進を南進と連絡して遂行する要ス

五 沖島哨艦現任務より此任務場へ動作現哨  
艦は元二艦對馬(辰連)に沖繩丸掩護艦より  
出港し 速力速き中継艦より直接掩護

艦より噴吹其位置に敵を敵に行動を取ルベシ  
沖島現哨艦と高平穂は十六天明哨所並致し提  
提地ニ帰来スル(即ち對馬)直接掩護より沖繩  
丸ヲ率ヒテ十日午後三時尾崎出港浪速に中継艦より

合年度時出港翌日天明三九〇地集至八

六、掩護艦交代

北勤務對三次順當に三艦北任務對する第一  
順出港後第三日自十自第一順出港の日の第二  
順十三日午後各自適宜根拠地を敷き第四日自  
早朝各指定位置に達する如く自北上り航路の  
沖より四三九〇地集に向て走り自北上り航路の  
レニ一、要ス勤務終了帰来スルヤ艦日又其位置  
ヲ離南下帰途ニキ立り尾崎ニ入ルモ、トス  
敵艦新来掩護艦航路ヲ辟ルノ航路ヲ  
抹、其夜沖繩丸ノ所在ヲ新直接掩護艦ニ  
通信ス  
浪速中途ニ入渠、爲メ中継艦、位置置ラキ

場合より新高の代り後直接接護艦ヲ千歳ノ  
 中継艦トシ全艦トシ時期ニ停港スル  
 (七) 竹田湾ト尾崎トノ連絡直通中継艦ヲ疾ク沖  
 島哨艦ヲ復修スル場合ニテハ浪速高千穂ノ交  
 代ヲ規定通リ沖島哨艦任務殿ニシテ三艦ヲ  
 以テ交代沖繩丸直接接護ニ任セヨ自ノ場合ニテ  
 其ノ艦ヲ臨時沖島哨艦ニ就カスルコトナラズ  
 報者  
 沖繩丸接護艦哨艦全様毎八時鐘ニ異情  
 有無ヲ報シヨ南直接接護艦ニ沖繩丸事業  
 進歩程度及ビ其ノ夜居ルニヤ沖繩丸位置ヲ白  
 々竹田哨艦ニ報告シ又常ニ連絡ヲ取居ルコト自ノ  
 線接信極ク必要トシ事項以外ニ使用セサルコト

(九) 注意スル

對敵動作

敵の露見を直接掩護艦の注意にまかせ、

中継丸を避敵せしめ、自己も中継艦を合え、

行動スト速スル、場危は方面に於て遭敵ハ

優勢ナルベク頼ハ速力ノ彼ニ勝ルニ依リ

廣ク思料セテ却他ニ顧ミズ安全ヲ保テ得ル自由行

動ヲ取テ専艦長ノ独断ニ委ス中継艦ヲ周敵

ニ考ル者ヲ以テ敵ノ執ヲカカニ應ニ壇ニ北進セズ

概行動主队ヲ来会ヲ待ツ等是亦艦長ノ独断

ニ委ス

中継丸ノ常ニ掩護艦ノ注意ニ對シ

降キテ掩護艦ノ命令ヲ限リ其場危ニ應ニ独断

行動と避敵二切手段是之必要

(1) 此任務終了後沖島宵艦任務の四戦機表第一

二五号庫令知り実行ス浪速の宵艦任務は削除ス

(2) 沖繩丸今固作業者中对馬の信子部員一名並敷光

信勝燈一組手旗寺権方世帯十日以後同船組

入ル

沖繩丸掩護中継任務順序之如決定

高橋	干早	新島	浪速	對馬	船員
/	/	我	中	我	我
/	中	掩	/	体	我
/	中	掩	/	掩	我
突	中	取	/	掩	我
中	休	休	/	掩	我
中	突	突	/	取	我
取	中	掩	/	休	我
休	中	掩	/	突	我
突	中	取	/	掩	我
中	休	休	/	掩	我
突	中	突	/	掩	我

以下此順ヲ繰リ返ス

掩護艦ノ速力約十三節早午時頃根拠地ヲ去リ

羽音早午時頃掩護地矣達ス

中継艦速力約十節早午後七時頃根拠地ヲ発シ

日午前五時頃三九〇地矣ニ達ス

第三艦隊司令官 瓜生 外吉

十月五日 北緯 北緯 〇一 30.20-30.17

竹敷

四戦機隊各三八機第四戦隊司令部 離陸後機隊

ヨリ千歳ノ第一艦隊ニ復シ以テ敵揚四戦機隊中

千歳ノ機隊ニ却章項ヲ削降ス又浪速佐佐保 赴キ

在早千早ヲ哨艦勤務ニ服セリ其順序ヲ直新ノ次ト

ナス

郭高

午後五時三十分至四時	船對馬出港越後丸所直鶴入港入
午後一時沖繩丸出港	
十日(月) 晴	BC 130.00-130.18
竹敷碓泊	
午前江浦丸入港十一及七艇隊入港十二艇隊及雜船	
雀島出港午後高穂入港鴻島出港	
十日(月) 晴	BC 130.00-130.18
竹敷碓泊	
午前五時艇隊名港鴨島入港午後三時四時艇隊	
第三三三号及二八号艇隊全艇出港	
海軍大尉坂本利俊退艦	
十三日(火) 晴	BC 130.00-130.18
正午位置	35-13-00 129-35-00

2727



岐線 接続ヲシ午後六時完成ノ報接ス依テ中継艦干  
早ヲ経テ左ノ報告ヲス

十五日午後六時 沖繩丸報告 電纜接続済ニ今更ニ

辺澤ト内地トノ通信差支ナシ同澤ヨリ天幕ヲ張リ依リ

通信ヲシ居リ明日高知ノ線ヲ揚テ試ムル也

昨夜沖繩丸ハ「ソトモ」岬附近夜泊本船ハ巡航中ナリ

戒ヲ為ス

十五日(木) AM. BC VE-NNE 1-1 30.07-30.04  
PM. BC-B EPE-E

岬附近夜泊

正午龍秋岬ノ南端ニ西約五哩ニ投錨ニ端舟ヲ遣

テ夜ヲ視察ニ傍ニ至半生魚ヲ得テ午後六時抜

錨四直宵兵ノ配備敵ヲ戒

本日沖繩丸ハ「ソトモ」岬附近ノ地ノ線ヲ揚テ試ムル也

海軍急ニ得リ到商援ノ案ニ得セリ備以午至九時之  
 中上ノ尚書日ハ切斷ニモ線浦迄ヨリ端々竹辺港ニ  
 陸揚スルヲ定ナリシモ天候良好ト陸連ニ松島線ノ  
 布設ソリスルヲ得策トシ竹辺港ニ面航直ニ内地線及松  
 島線ノ陸揚ノ完成作業ニ従事ヲ依テ本艦  
 又竹辺港ニ到リ時夜泊ニ沖繩丸ト詰事ヲ打合セテ后  
 夕刻拔錨ノ整兵ノ爲メ巡航ス

正午迄ノ報告ヲナス

海軍急ニ得リ一線援素身ハ幸ニ付中止ト天候  
 良好ト内松島線ヲ布設スル爲メ之ヨリ竹辺港ニ至リ  
 陸揚ノ設備及松島線ノ陸揚ヲ明瞭ヨリ布設  
 之事ヲ始ム本艦モ下ヨリ兼共ニ竹辺港ニ至リ  
 其附近監視ニ任ズ

午後三時左ノ震受領

中継艦より本日ヨリ十早ノ沖島青線ヲ移ル対馬

明日交午ニ行リ第二艦隊司令長官

今ニ時左ノ報告ヲス

松島艦ノ竹辺港停揚了

十六日(金) AM. BC-0C. NE 4-5 30.04-29.85

正午位置 BC-17-20N 130-34-0E

午前七時沖繩丸ト会ヒ若ニ松島ヨリ向テ正午頃ヨリ風波

漸ク甚シク午後二時沖繩丸ト別シ先ヅ松島到

望樓ヨリ望見ヨリ報得テ附近監視在ス午後九

時沖繩丸松島南方ニ来リモ風波強クテ良好ノ晴

地ヲ見テ得テ以テ遂ニ九時幸分甚覺線リ

切而断リ活摺ヲ附テ投棄セシ本夜北附近浮泊決

ス

依テ午後十時迄報告ス

竹辺湾 松島 同 横 纜 布 設 了 明 日 陸 揚 予 定

本 艦 午 后 十 時 松 島 発 帰 途 既 由 直 背 向 西 配 備

主 后 十 時 松 島 発 及 尾 崎 向 北 東 風 浪 益 々 増 加

艦 傾 斜 三 十 度 越 之 一 一

去 日 (土) AM. De-DOOR-BCA VNE-NE 5-6 29.89-29.65

正 午 位 置 尾 崎 湾 口

午 后 十 時 主 后 竹 敷 六 港 座 小 島 北 西 三 鏈 投 錨

ス 左 三 時 錨 地 主 後 更 座 小 島 北 西 約 四 鏈 投 錨 ス

今 午 午 沖 纜 丸 入 港 ス 甚 暴 風 雨 海 浪 甚 大 為 難 於 夜

十 時 松 島 出 発 予 定

去 日 (日) AM. BC N 0-1 29.92-29.92 PM. BC N-V 0-1

竹敷碓泊

午前十時石炭塔載(三巨甲上)リ奴ノ今十時終ル

十九日(月) AM. BC N 0-1 2998-2998

竹敷碓泊

午前鴻出港(主) 七十三号艇入港 午後三十一、三十三号艇

越后丸入港 沖繩丸 越后丸出港

二十日(火) AM. B-BC. NW-NE 0-1 2998-2998

竹敷碓泊

午前沖繩丸 陸軍運送船 甲吹丸 泰夫丸 及 鴻鷹

入港 于身七十三号艇及高平穂(尾崎)向出港 午後

浪速 對馬入港

海軍大尉堀田英夫乗艦

二十日(水) AM. B- BC NW-NE 0-1 2997-2988

2733

竹敷碇泊

午後五時砲ノ三番砲員照準群島古・鴻鷗及  
第十七艦隊出港 七十三号艦入港 午後十八時艦隊入港 午  
後奉夫丸出港、糧食塔搭載、信務兵浪連下信  
群島古ノ人

壬(6)未) AM. BC-B WNW-NW 1 30.10-30.08

竹敷碇泊

午後浪連、沖繩丸及第十七艦隊出港 越後丸鴻鷗  
入港 午後五時三十分出港 午後三時沖繩丸追及シ  
昔松島ノ向、風波次第増加し明日ノ作業見込ナリ  
沖繩丸請求言、五子碇泊為、竹迎壱ニ向、四直  
哨兵隊備隊言、戒メ

壬(金) AM. BC-B NW-WNW 3-4 30.12-30.08

竹辺湾附近停泊

午前七時三十分沖繩丸ヲ共ニ竹辺湾ニ入港シ龍湫岬ノ南西  
ノ南ニ南ノ鐘ニ投錨ス此日風波尚止ス速ニ碇面作  
業ニ着手從事スレリ得ガ

午後時出帆沖繩丸ト同行松島ニ向テ西道碇寄配  
備

潜水機ヲ使用シ艦底ノ検査ヲスス因リ女サキ手艇ヲ使  
散上ル許ス(約二時向)

11月10日(土) AM. BC NB 130-5/1-ON 130-18-30.05

正午位置 130-5/1-ON 130-18-30.05

午前七時三十分松島着自今島附近ヲテ監視ニ任ス

沖繩丸ノ碇キニ投棄シ置キ電燈ノ附近ヲ測自里ニ

是后松島東望樓ノ南西方ニ在テ電燈ノ碇

一端ヲ陸揚ニ終リテ該電纜トテ西澤線ト海上接  
合作業ニ従事ス

午後五時十分左ノ電報受領(竹瀝無線電信及沖繩  
丸電信)

丸電信)

浦塩斯德艦隊修理済ノ報ヲ沖繩丸之事業落  
成至急ニ要ス進行摸樣如何

第三艦隊司令長官

續テ更ニ電受領(沖繩丸電信)

浦塩斯德艦隊三日夜出港ノ報アリ沖繩丸

之事中止セシメ尾崎司令官ニ第三艦隊司令長官

以上電報ニ對シテ報告リテ

應急接合時同ニ終見込ニテ故結了後速カ

士運手海山ノ沿ヒ南下ス

士運手海山ノ沿ヒ南下ス

依テ本艦ハ沖繩丸陸上瓜道入收宿ヨリ對方ニ事リ急カ

シメシ今時平完全ニ接合ラ遂ゲ得テ九時五分沖繩丸

ヲ率ヒ松島奏帰途ニ上

三音(月) P.M. BC BC NMT-2 1-4 30.24-30.17

正位置 34-24-02 129-17-15E

午前十時釜山沖ニ沖繩丸別本艦ハ速カヲ增加シテ

午後三時竹敷港ニ帰着ニ麻ヶ小島ノ北ニ西三四二

鷗ヲ救額ス 午後五時沖繩丸入港ス石炭給付

第三艦隊佐渡團丸出港十八艦隊入港ス

松島ニ於テリアニコルド岩実見者ヨリ聴取リタル情報

リアニコルド岩韓人ニテ独島ト書奉ル漢文書見タル

テイヤニコルド島ト字稱セリ別我界地圖ノ如クニ半島北端ヨリ

成リ西端ヨリサ約四〇呎險阻ニテ物々ト困難ナル

又東此較依リテ雜草ヲ生シ原上稍々平坦ノ地アリ  
二三ノ倉ヲ建設スルニ足ルト云フ

淡水東嶼東面ノ江内ヲテ少許ノ灣又左嶼ノ南ヨリ莫  
水面ヨリ三河内所ニ湧泉アリテ四方ニ浸生ス其量稍  
々多ク年中涸渇スルトナシ西嶼ノ海方ニC臭ニモ丹清  
水アリ

嶼ノ周圍ニ莫在ル岩概シテ冊キテ大ニ數十

置リ敷ク足リ常ニ水面ニ懸出ス海馬ノ云ニ群集ス

西嶼ノ向ニ船ヲ繫スグニ足ルモカ丹サバ陸ニ引揚ル

常トシ風波強ク左嶼ノ船ヲ泊ル難キ時ハ大抵松島

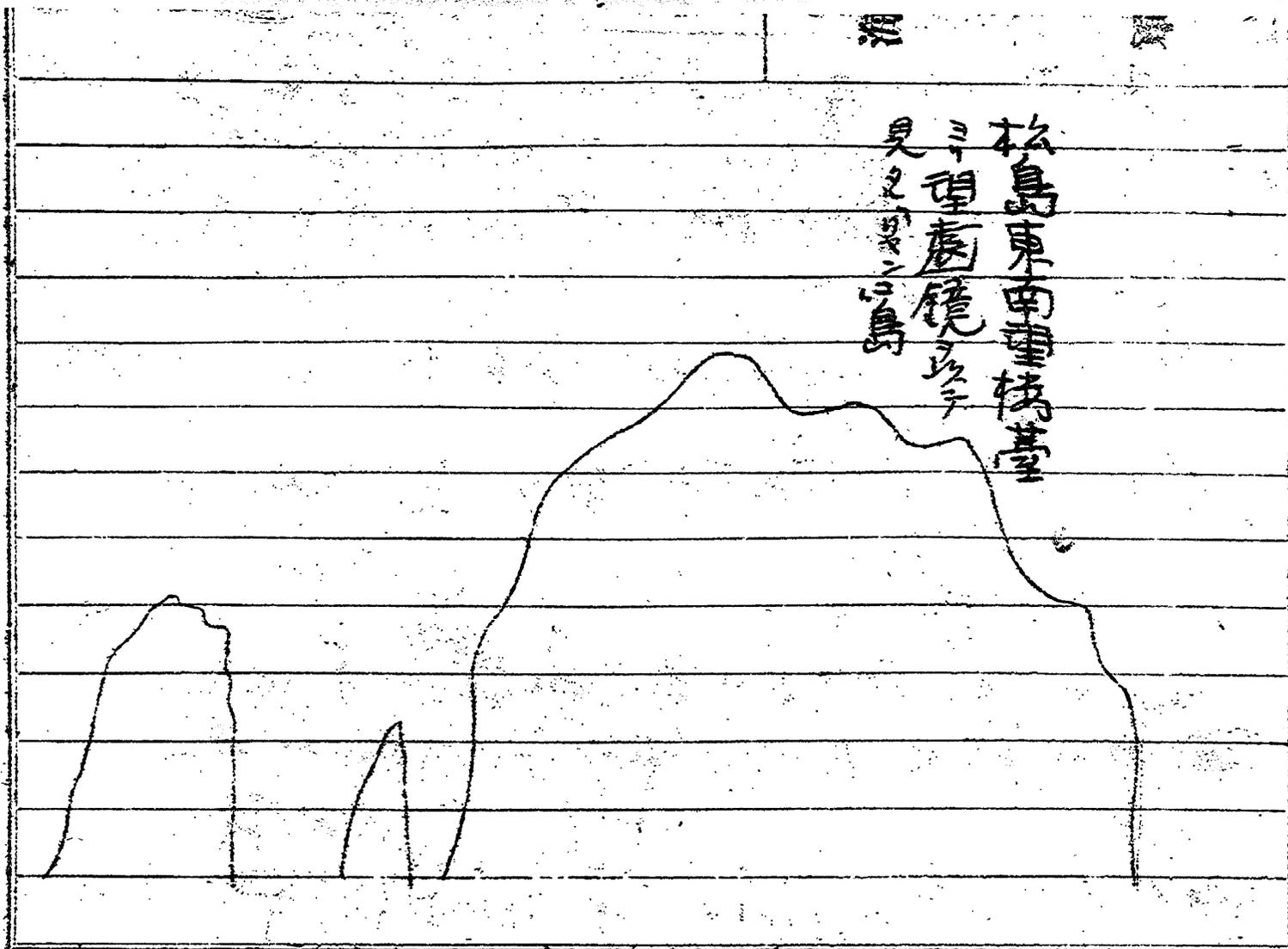
ヲ順風ヲ得難クト云フ

松島ヨリ渡航海馬ノ從事スル者ハ定テ石積

ノ和船ヲ使用シ嶼ニ納屋ヲ構エ毎回約十日

滞<sup>在</sup>多<sup>量</sup>、收<sup>額</sup>ア<sup>リ</sup>ト<sup>云</sup>フ<sup>兩</sup>其<sup>人</sup>員<sup>モ</sup>時<sup>々</sup>由<sup>五</sup>年  
 名<sup>ヲ</sup>超<sup>過</sup>ス<sup>コト</sup>ア<sup>ル</sup>モ<sup>決</sup>水<sup>不</sup>足<sup>ハ</sup>告<sup>ガ</sup>リ<sup>ト</sup>又<sup>本</sup>年<sup>一</sup>ハ<sup>介</sup>  
 數<sup>回</sup>渡<sup>航</sup>シ<sup>ト</sup>モ<sup>三</sup>有<sup>十</sup>七<sup>回</sup>國<sup>軍</sup>艦<sup>三</sup>隻<sup>左</sup>島<sup>附</sup>近  
 ニ<sup>現</sup>レ<sup>一</sup>時<sup>票</sup>泊<sup>シ</sup>後<sup>北</sup>西<sup>ニ</sup>進<sup>航</sup>シ<sup>テ</sup>美<sup>見</sup>セ<sup>リ</sup>ト<sup>云</sup>フ  
 及<sup>ニ</sup>見<sup>ル</sup>國  
 隱<sup>岐</sup>島<sup>前</sup>ニ<sup>巨</sup>商<sup>船</sup>五<sup>隻</sup>里  
 日本  
 松<sup>島</sup>前<sup>ニ</sup>巨<sup>商</sup>船<sup>五</sup>隻<sup>里</sup>  
 周<sup>圍</sup> 港<sup>里</sup>  
 上<sup>ノ</sup>數<sup>萬</sup>  
 石<sup>垣</sup>島<sup>前</sup>方  
 辰

2739



2740

平六日(月) AM. B-BC N 0-1 30.07-30.10

竹敷碓泊

午前平岸及高千穂(屋崎向)出港 鳴鳴 浪速庵

午後鳴 軍砲艦出港 越谷丸出港

平七日(火) AM. BC N 0-1 30.11-30.07

竹敷碓泊

午前浪速庵崎向(美千代)越谷丸出港 第七艦隊

の港

平八日(水) AM. BC-BCR N-NE-1 4 30.18-30.08

正午伊豆道 34-33-0N 129-18-45E

午前以時對馬及土艇隊出港 五七時表美丸鳴 六時

子艇入港 午時出港 松島 鹿島 電燈所 設残 業後

或、係、以、時、逆、信、者、技、術、士、三、名、毎、日、松、島、三、回、

手、下

存運十時、午十時、午半、帰港、遭、哨、警、備

警備

三九日(木) 松島附近 130.20-30.18

松島附近 130.20-30.18

午、敵、方、時、半、金、島、の、南、北、東、右、東、一、運、水、深、十

尋、知、夜、泊、の、直、陸、上、電、信、事、事、有、午、の、午、反

土、時、半、二、事、終、了、掛、負、帰、艦、す

各、船、約、四、時、向、半、航、陸、上、散、歩、ヲ、許、す、全、夜、哨、兵

取、備、警、戒、す

三十日(金) 松島附近 130.20-30.17

竹、辺、湾、附、近、夜、泊

午、臥、時、十二、分、投、錨、竹、辺、湾、の、三、回、航、の、午、臥、七、時、四、分

竹、辺、湾、龍、崎、岬、南、西、以、南、約、七、鐘、投、錨、す

全十時半陸上電信ノ事、設成ニ拔鋪、  
 岬附近ニ到、水底電線端ニ碇置、  
 浮標ヲ揚收、  
 午後三時、  
 四時、  
 午後、  
 碇置、  
 浮標、  
 岬、  
 向

2743

